

平成23年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成24年1月25日（水）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

◎事例発表

地 区：港北区 菊名の未来を考える会

テーマ：笑顔の見えるまちづくり

発表者：うるしばら けんじ 漆原 謙二さん（菊名の未来を考える会 会長）

○漆原 菊名の未来を考える会の漆原と申します。まずはこの活動の発表の場を与えていただいたことに感謝いたします。

早速ですが、菊名駅は、港北区の東横線とJRの交わる駅です。この菊名の未来を考える会を発足したきっかけは、今年で7年目ぐらいを迎えますが、当初私は、菊名を離れていまして、家業を継ぐために菊名に戻ってまいりました。そこで、どなたもありがちなパターンかと思いますが、戻ってきた時点でこの菊名の生活や住人、商店の人たちのつながりがどうなっているのだろうかと周りの何人かに話をしましたころ、「なかなかそういう話をする場所がないので、気軽に話せる場所をつくったらどうか」ということになり、コミュニティの場をつくりました。

その中で、三、四人ぐらいで始まった会ですが、今どういうことがこのまちで必要なのだろうかなど、気軽に話していたところ、菊名駅は東横線が走っている関係で、悪い言い方じゃないですが、「東と西と完全に分かれているような状態である」というような話や、「町内会も表谷、大豆戸、菊名北町、篠原という四つの地区に分かれていまして、つながりや情報のやり取りが少し分かりづらい」というような話が出てきました。そこで、私たちの会でパイプ役のようなことができればということで、各商店や近隣の方に話を伺いました。

その中で特に話が聞かれたのは、「商店の方たちで商店街に属してない店舗では、特に情報が入りづらい」というようなこと。あとは、「単独で今の時代、運営、経営していくのが非常に厳しいため、協力し合ったほうがいいのではないか」というような意見も聞かれました。また、「各商店街や町内会の横のつながりが、会の中心に関わっている方以外の方に、どういう情報がなされているのか、なかなか見えづらい」というような話が出ました。

そこで取組に当たってですが、資料にも書いてありますが、町内会、商店街、学校、民間企業、一般住人の人たちが気軽に参加できるような、そういった枠を超えた取組ができるような開放された会といいますか、そういったものができたらいいのではないかという

ようなことを意識して、会の方針を決めました。

その中で、次に実際に活動を紹介する映像があります。6分ほどありますけれども、そちらを御覧いただきながらお話しをさせていただければと思います。

映画館のような雰囲気になっていますが、こちらが私たちの会の年間の活動の様様を簡単にまとめたものです。ペットボトルのキャップですが、こちらをワクチンに変えようということで、学校などに御協力いただいて活動している内容です。東急の駅にキャップの回収の箱を設置させてもらいました。地元の小学生が、自転車の案内表示を作ってくれました。全部、菊名の子供たちが描いた絵を使いました。5月に行われます商店街のバックアップということで、パレードを行いました。農業体験、これは昨年からちょっと試験的に始まりました。七夕。そしてハロウィン。これが簡単にまとめた年間の活動ですが、こちらにはありませんでしたが、12月に初めてクリスマスコンサートというものを東急電鉄の構内でやらせていただきました。次にもう少し詳しい活動の映像を見ていただければと思います。

地元の菊名小学校のマーチングのパレードですけれども、毘沙門祭りというお祭りの中で、駅の前に道路をこのように演奏しながら子供たちに歩いていただきました。これは昨年初めて行ったことなので、どうなるかと思いましたが、天気も良く、たくさんのお客の方に見ていただきました。

次に、先ほどの発表の方の中で農業体験ということで、すごく私たちの会のヒントになりましたが、昨年少し試験的にといいますか、地元の農家さんに協力をいただいて、畑を耕すところから種を植えて収穫、そして販売までを試験的にやりました。第1回目ということで、関わったのは少数でしたが、地元の幼稚園の子供たちに収穫を手伝ってもらい、販売では東急ストアの前をお借りして、実際に野菜を販売いたしました。

次に7月、七夕の時期ですけれども、こちら会が発足して間もなく、最初に始めた活動ですけれども、日本的な伝統文化ということで、しっかり継承していくことが大事なことでないかということでやりました。七夕の笹を飾るだけではなく、東急の菊名の駅長などに御協力いただいて駅長室をお借りしての記念撮影や、70店舗ぐらいの商店の方にも参加していただいて笹をそれぞれに置き、短冊をかけて子供たちが店舗の前で願いを込めるような活動もしました。

次にハロウィンです。こちらは昨年で2回目になります。ハロウィンは割と最近どこの地域でも根づいてきたような感じがあります。ハロウィンの時期に学校を中心に子供たちに、発表していただくというような活動を行いました。菊名駅の構内ですが、昨年からお借りして協力しています。子供たちもこういう発表する場があって良かったと言っており、その関わる家族の方や地域の方が楽しんで御覧になっていました。

次にハロウィンの中で行った活動の中で、駅前コンサートも含めて「ハロウィントレイン」と名付けておりますけれども、地元の幼稚園の園児が中心ですが、列車のようにつながって、各店舗さんにお菓子をもらいに行きました。色々な地域の子供たちと商店若しくは地域の方と触れ合う機会となりました。一昨年には地域ケアプラザにお伺いして御年輩の方とふれ合う機会を持つようなことも行いました。子供たちが回っていくと、みんなす

ごい笑顔になり、参加した方々も良かったとおっしゃっていました。仮装コンテストを昨年初めて行いました。七夕やハロウィンの時期に各学校にアピールをしていただくということで、ポスターを書いていただきました。昨年のハロウィンでは70枚ほど学校から応募があり、これをコンテスト形式にして順位を決めるというような活動も行いました。

映像は以上です。これをきっかけに行った取組の成果ということでお話しをさせていただきますが、まず、このまちの発展に欠かせない東急電鉄や自治会町内会などの御協力もいただけるということで、民間の企業との取組というのはなかなか当初できなかったのですが、こういった活動を踏まえて行った結果、東急電鉄や東急ストアなどの御協力もいただけるようになりました。

活動を行ううちに、地域の住民の方たちが、私たちも含めて、自分たちのまちということで、まちのふるさと化ということもテーマで話しましたが、自分たちのまちは自分たちでつくっていくというような意識が持てるようになってきたという感じがいたします。

更に子供たちの成長が感じられるということで、先ほどの映像にありましたけれども、実際に自分たちが活動に参加することによって、自分たちがこれからこういった活動を通じて、自分たちのまちは自分たちでつくっていけるようなイメージを持ってもらえたらと考えました。

先ほどもお話ししましたが、学校との連携ということでは、学校が特に地域との関わりを深くします。地域活動、地域貢献活動などが最近学校から必要とされており、連携するにはすごくいいタイミングだったということもあります。

学校、公的なところが参加するに当たってのテーマとして、環境問題があり、先ほども映像にありましたけれども、私たちはペットボトルのキャップを回収してCO₂を削減し、ワクチンとしてそれを世界の子供に送る。若しくは、農業体験、地産地消など環境をテーマにすることによって、学校もテーマに沿った形で参加しやすいだろうということをおっしゃっていただきました。

また、資料には書いてありませんが、七夕とハロウィンの中で、地元の新聞社と協力しましてこのようなチラシを作りました。実際に地域の新聞に折り込まれて、号外として作っていただきました。こちらの裏側にありますけれども、ウォークラリーに参加された店舗は160店舗ぐらいありますが、このチラシを持って子供たちがハロウィンのときにはお菓子を回すなど、地域と子供たちが接する、学校としては子供たちが安心して暮らせるまちづくり、こども110番ということで、その役割を果たしているようなことになりました。

行政との関係については、昨年「地域のチカラ応援事業」の補助金を頂きました。私たちも活動に当たって色々な各団体と協力をさせていただく必要があり、このことにより透明性が出ると思いますか、バックアップとなり、非常に良かったと思います。他方面ということで、民間企業に対してはやはりそういうことが非常にこれから活動していく中で大事じゃないかと思います。補助金を頂くことによって今までできなかったような色々な活動がだんだんできるようになってまいりました。

最後になりますが、これからもより良い菊名の未来をつくっていきたいと思いますので、参加されている色々な団体の方々と協力していければと思います。御清聴ありがとうございました。